

アジア地域臨床獣医師等総合研修事業 秋期全体研修の実施

平成28年度から日本中央競馬会特別振興基金助成により実施しているアジア地域臨床獣医師等総合研修事業は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、令和2～3年は研修生が来日できなかったため、令和4年度は3年ぶりの実施となった。本年は第4期研修生11名（タイ、キルギス、ネパール、台湾、ベトナム、モンゴル、スリランカ、インドネシア、バングラディシュ、マレーシア、フィリピン）を迎え、全国獣医学系大学のうち、北海道大学、帯広畜産大学、北里大学、東京大学、東京農工大学、日本大学、大阪公立大学、山口大学、宮崎大学、鹿児島大学において、家畜の越境性感染症や臨床獣医療に関する研修を実施している。

この度の秋期全体研修では、令和4年11月11～13

日「第21回FAVA大会」に参加し、ワンヘルス分野や薬剤耐性（AMR）、畜産分野におけるICT（情報通信技術）及びAI（人工知能）の活用と展望等、最新の知見を学ぶためさまざまな講演を聴講した後、11月14～21日の日程で、国内関連施設5カ所を訪問した。

- ①「農林水産省動物医薬品検査所」において、わが国の動物用の医薬品、医薬部外品、医療機器及び再生医療等の製品等品質確保を図るための審査・検査方法等について学んだ（図1）。
- ②「フジタ製薬(株)東京工場」において、ワクチン製造方法、製品の検品、チュアブル錠の生産工場を見学した（図2）。
- ③「農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究



図1 農林水産省動物医薬品検査所で説明を受ける研修生



図3 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門で説明を受ける研修生



図2 フジタ製薬(株)東京工場で各国の国旗を手に記念撮影をする研修生



図4 瑞穂農場 那須支店の子牛の飼育舎を見学しながら説明を受ける研修生

部門」において、同部門の国内外における動物感染症防除のための取組について学んだ（図3）。

- ④「瑞穂農場 那須支店」において、酪農・畜産、飼料作物生産、受精卵移植まで幅広く運営されているメガファームの実情を学んだ（図4）。
- ⑤「東京都芝浦食肉衛生検査所」において、生体から枝肉までの各工程における検査と、同所内での食品衛生上必要な精密検査について学んだ。

本年は来日時の初期研修はオンラインで行ったため、この度の全体研修が第4期生11名全員が初めて顔を合わせる機会となった。

さらに本年は、各国における獣医療及び来日後の研究成果の報告をするために研修生による発表会（図5）や、日本文化への理解を深めるため、箱根を訪問し寄木細工の体験等を実施した。

最後に、今回の研修において、ご多忙のところ快く研修生の見学を受け入れていただいた5施設の関係者にこの場を借りて改めてお礼申し上げます。



図5 研修生による発表会の様子